

## 職員が育ち、定着する職場づくりのために

### スーパーバイザー研修の成果をふまえて

質の高い福祉サービスの恒常的な提供のために、福祉職場の人材育成・定着の取り組みがあらためて重視されています。本会のスーパーバイザー研修（以下、SV研修）は、この育成・定着を担う指導者養成の上で、大きな役割を果たしてきました。

去る6月13日、これまでのSV研修の成果を振り返りつつ、より現場に生きる研修とするため、研修協力者（講師陣）と修了者を迎えた懇談会を実施しました。

懇談会の結果を受けて、職員の育成・定着の上でSV研修が果たす意味合いについて報告します。

### スーパーバイザーが福祉職場にもたらすもの

「シフト勤務などで、職員が共通の視点で仕事する環境がづくりにくい」「どうしたら職員が同じ方向を目指し、上司と部下、あるいは先輩職員と新任職員が、お互い良い関係で仕事の質を高めていけるだろうか」―研修の参加動機を聞くと、福祉職場に共通とも言える課題があげられました。

そうした中で、SV研修に参加したことによる変化として一様に聞かれたのは、聴く耳を持ち、相手の自己覚知を促す支援スキルを身につけることができたということ。その結果、ある施設では職員から「上司が自分のことを見てくれてすごうれしかった」という声があったそうです。SV研修は、職員がこの人のもとで働き続けたと思える「上司づくり」にもなっているということでした。

質の高いサービスに向けてOJTなどは不可欠ですが、指導方法の不都合が職員の離職につながる例も多くあります。SV研修は、そうした中で、指導する立場の人材に欠かせない考え方やスキルを伝授してきたと言えます。

一方でSV研修の目指すものは、スーパーバイザーを担う指導者の育成だけではなく、それぞれの現場の日常場面でスーパーバイジョンの考え方が生かされることにあります。ある法人では、職場

内研修にSV研修の内容を取り入れ、職員間でスーパーバイジョンの必要性について共有したという報告がありました。このような取り組みを通して、職場の中での共通認識をつくっていくことや、トツプマネジメントの部分でその必要性が認識され、体制が確保されていくこと、その結果、職員の育成・定着につながっていくことの大切さなどが語られていました。

魅力ある職場づくりの発信を

### SV研修の成果が生きる現場をつくる大切さ

県内の福祉施設等関係者の声をともに、SV研修は内容を充実させてきました。今後も、今回の懇談会でいただいた声や実践などを入れて、現場で生かせる研修となるよう、またそれを通して、神奈川県らしい魅力ある福祉職場づくりの方向性が見えるよう、充実させていきたいと考えています。

#### 平成29年度研修のご案内

- スーパーバイザー研修
  - 日程：4日間1コース(9月5日(火)、19日(火)、10月17日(火)、11月15日(水))
  - 内容：SVとは何か、SVの実践等
- 人材育成体制研修 (管理者対象)
  - ・1日間1コース(2月20日(火))
  - ・SV実践に必要な体制等の環境づくり等

(福祉研修センター)

## 第41回神奈川県福祉作文コンクール 作品募集中

応募資格	県内の小学校、中学校、特別支援学校生（小学部・中学部）、フリースクール等の通学生
内容	(1)内容＝福祉について日常を通して感じたこと、考えていること、体験したこと、こうしていきたいと思っていることなど (例) ☆障がいのある方々との交流やお年寄りとのふれあい ☆地域、学校・家庭での体験 ☆福祉施設入所の方々との交流 ☆しあわせな社会をつくるため、こうしていきたいと考えていること ☆赤い羽根共同募金の活動に参加して感じたことなど (2)題名＝自由 (3)字数＝小学生 B 4判400字詰め原稿用紙を使用し、1,000字以内 中学生 A 4判400字詰め原稿用紙を使用し、1,800字以内
締切日	平成29年9月8日(金)
応募先	学校ごとに、県共同募金会の各市区町村支会内「福祉作文コンクール事務局」へ送付してください
問合せ先	(福)神奈川県共同募金会 ☎045-312-6339 本会地域福祉推進部地域福祉推進担当 ☎045-312-4815